



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 59

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
弁天山
大正11(1922)年11月16日
詫間町

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。〔文書館 ☎63・1010〕

かつては詫間駅の西側に弁天山と呼ばれる標高22mの小山があった。昭和60(1985)年7月に土地区画整理事業による採土がはじまり、弁天山は姿を消した。大正11(1922)年11月16日、陸軍特別大演習統監のため摂政宮(後の昭和天皇)が登山した際の写真。写真手前は見学の外国人武官等を迎える数多の人力車。松崎小学校付近から詫間駅方面を見た風景。

「思い出の1ページ」

今回は、詫間町松崎地区を中心に史跡めぐりを行う松寿会の白井豪之輔さん(89)、白井正速さん(87)、水口澄夫さん(82)、大西進さん(80)、本田進さん(73)に話を伺いました。「弁天山がまだあったころ、頂上には昭和天皇(当時摂政宮)の御野立所(天皇の休憩所)を設営した場所に、『皇太子駐駕碑』と書かれた石碑が建っていました。頂上からは三野津平野や三野津湾、詫間町の須田方面まで見渡せたので、この場所が選ばれたのでしょう。母の話では、天皇陛下が道を通られたときには、みんなが沿道に座って頭を下げたそうです。このときには善通寺の師団と広島からやってきた師団が演習に参加していました。広島師団は須田港に上陸したと、港近くの石碑に記録が残っています。写真にもたくさん軍人さんが写っていますね。」

弁天山にまつわる話が次々と展開され、次第に話題は戦後へと移ります。

「駅前ということもあり、弁天山の周りには店がたくさんありました。酒屋にうどん屋、唐傘屋、お茶屋、時計屋、散髪屋、桶屋…。何でも揃いましたよ。駅から降りたら食堂に寄って、一杯飲んでから帰るとい

編集 後記

今月の表紙は、10月8日に行われた「とよなか秋のまつり」。町内から15台のちようさが集まり、力強い差上げが披露されました。長年参加している人に話を聞くと、「生まれたときから、ちようさは身近なもの。人生の一部」だと語ります。地域の伝統が続く源には、ちようさに懸ける熱い思いが息づいているのですね！

こともありました。旅館も3軒あって、駅から遠いところに住んでいる人は、泊まりがけで来ている人もいましたね。

子どもたちは、弁天山の上でよく遊んでいましたよ。時には、上級生に、弁天山のつっぺん登れ、と言われて、お説教されることもありましたが(笑)。人が集まる場所になっていたんですね。」

32年前、弁天山が土地区画整理事業で無くなってからは、その跡地に、弁天宮と昭和天皇が訪れた際の石碑が移されています。また、お宮さんの石段の一部は、水出の山之神社へ移し替えられました。弁天山は姿を消した今も、その名残とともに歴史を伝えていきます。